

# 景況動向指数(Diffusion Index)

(2022年7月～9月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

## 長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 ( 2 0 事 業 所 )

建 設 業 ( 2 0 事 業 所 )

卸 小 売 業 ( 2 0 事 業 所 )

飲 食 宿 泊 業 ( 2 0 事 業 所 )

サ ー ビ ス 業 ( 2 0 事 業 所 )

\* 調査期間 2022年7月～9月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

### \* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$  となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

コメント

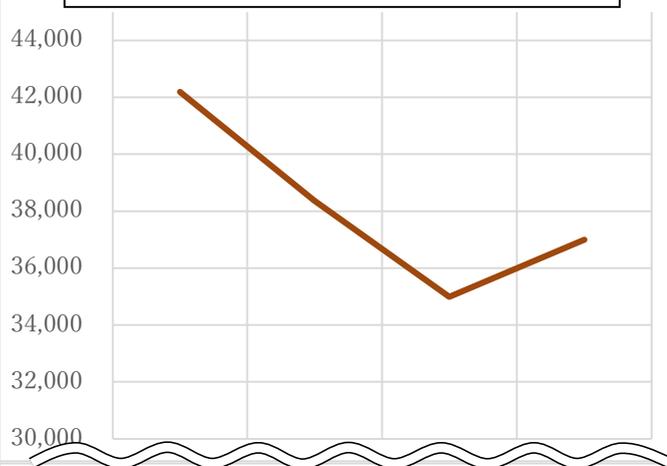
製造業の業績判断にかかるDIは、足元での減少傾向が顕著な中、材料価格上昇の影響が続いており資金繰り不安が続いている状況である。

売上DIは前年同期▲15、前期▲40と足元の苦戦があり低調な状況である。資金繰りDIについては前年同期▲10、前期も▲10と悪化傾向である。来期の見通しも▲10と低調な状況が続く。原材料仕入単価DIの上昇が続き、前年同期+50、来期見通し+45と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。引合いDIについても、前年同期▲20と低調である。

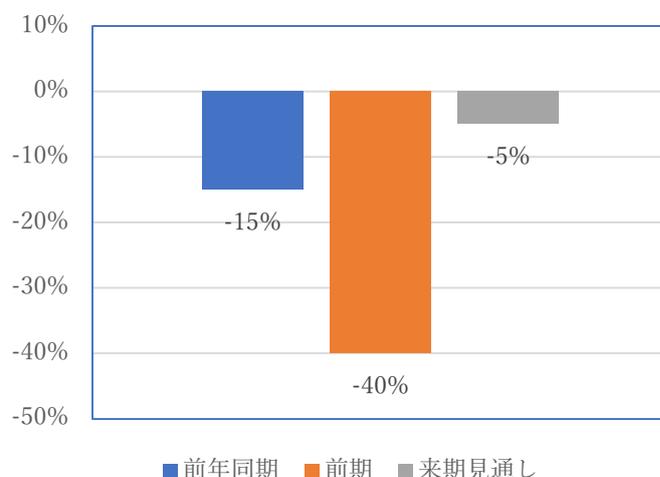
設備投資について足元は低調であるが、来期に計画しているとの声は他業種より増えている。

個別の声として、コロナ前と比べて原材料費や工具の高値に対して納入価格は据え置きで利益が上がらない。値上げ交渉しても相手先の提示価格で決まってしまうので赤字が出る。材料価格の値上がりや価格転嫁したことが客足や客単価の減少につながると感じている。ロシアウクライナ紛争による原材料と包装資材の価格高騰が目立っている、巣ごもり消費については一段落している。といった経営環境に不安のある声が多数聞かれる状況である。

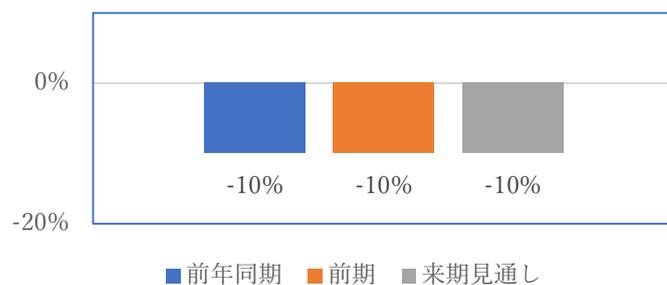
売上推移（千円）



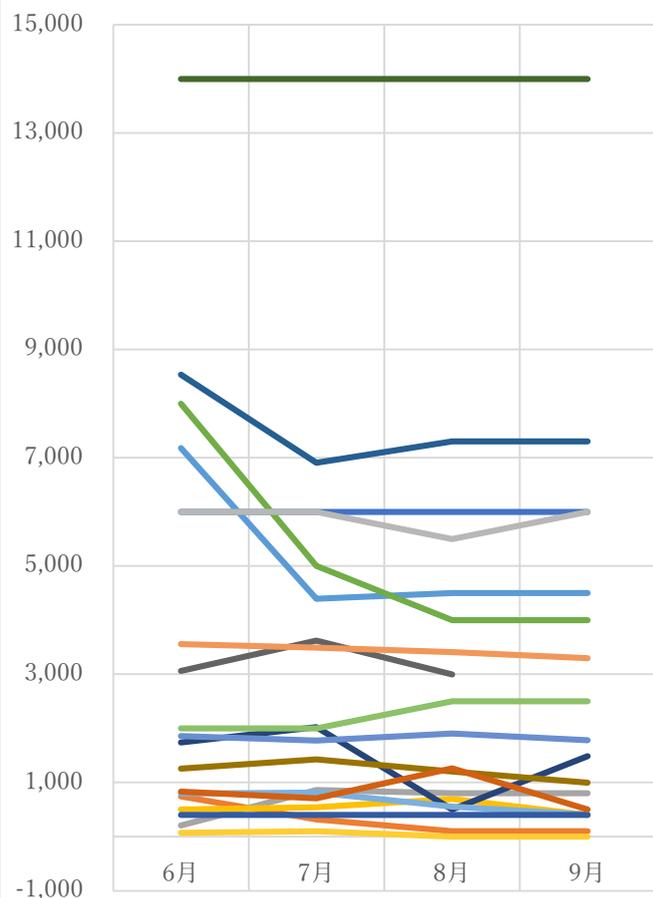
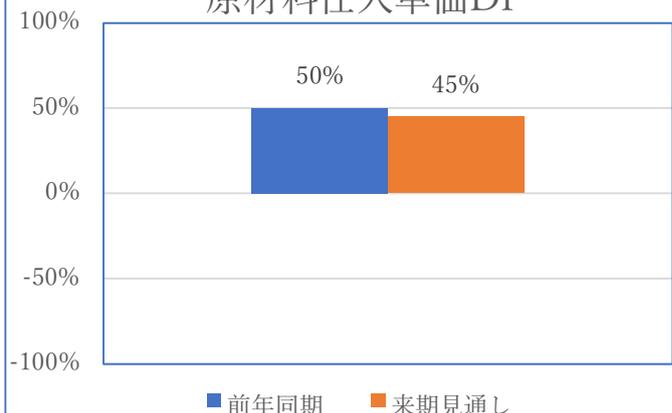
売上DI

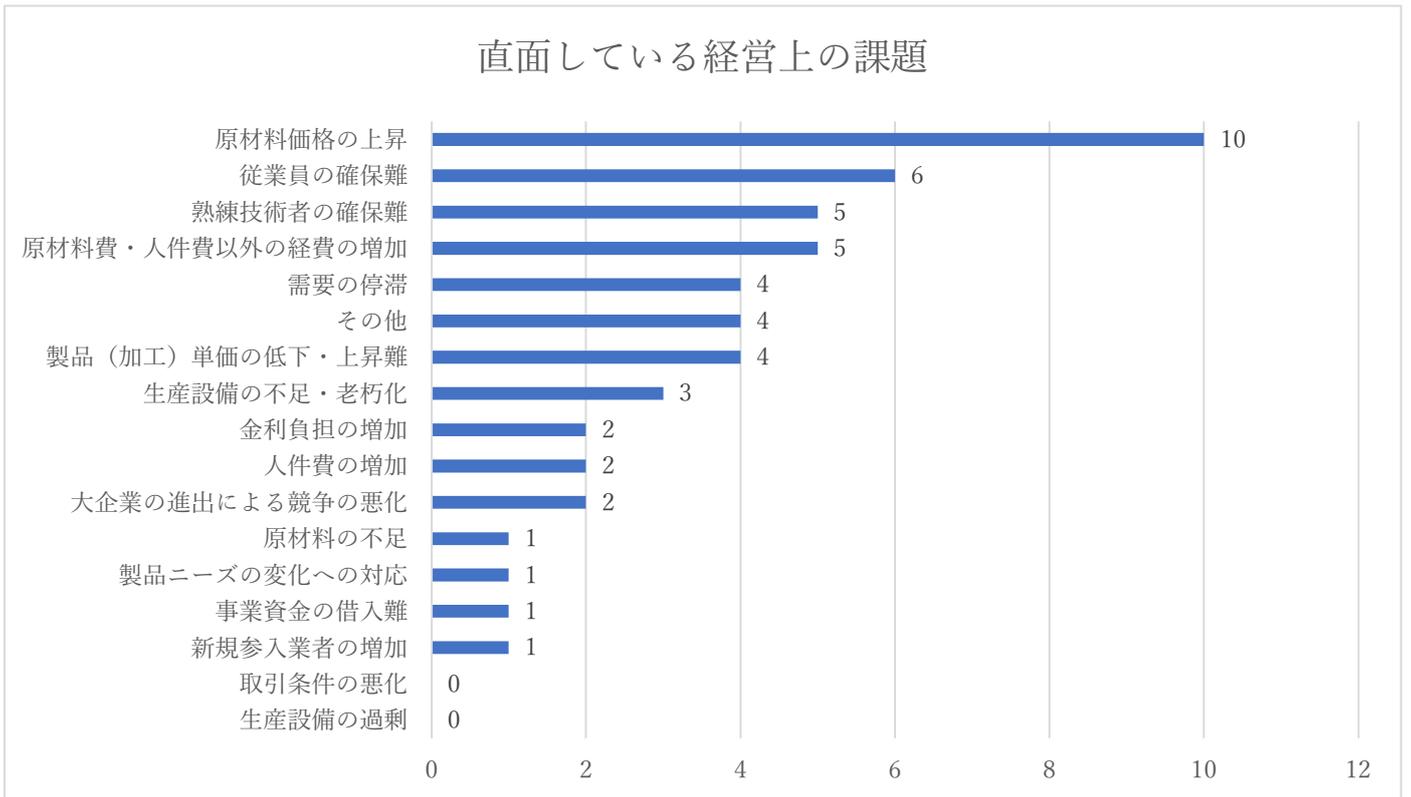
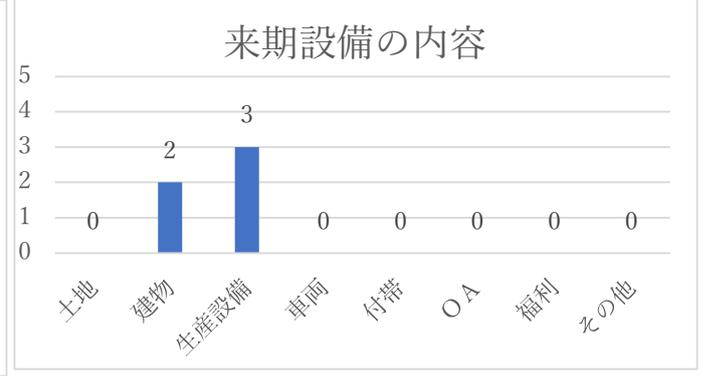
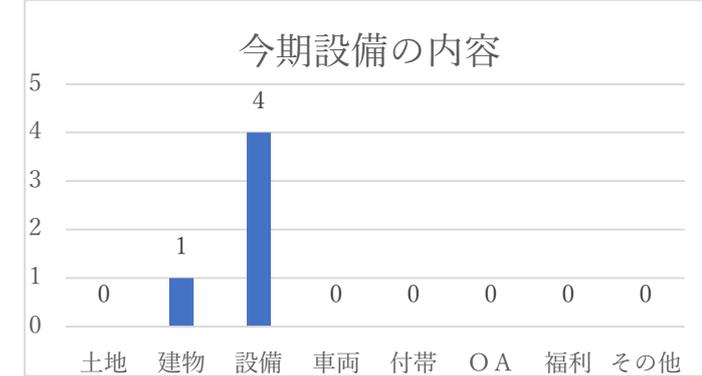
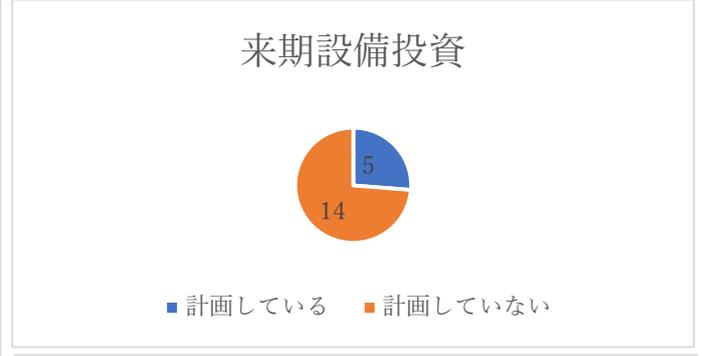
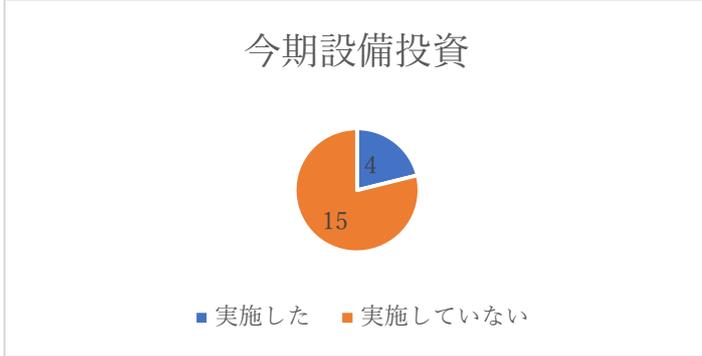
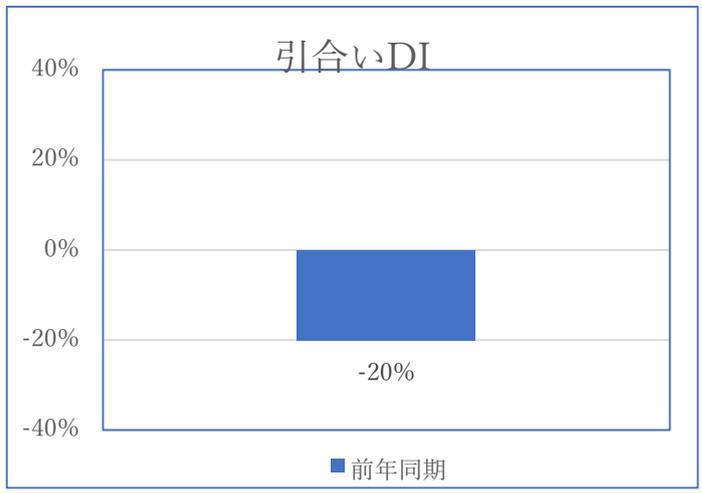
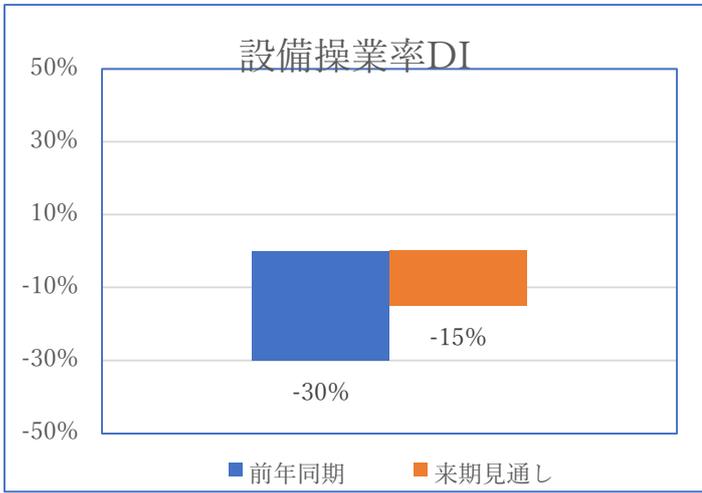


資金繰りDI



原材料仕入単価DI





建設業（2022年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

建設業の業況は、受注環境では全業種で唯一回復の改善傾向があるが、原価上昇の影響により採算面での不安が引き続き見受けられる。

完成工事高DIは前年同期+25、前期+20と足元では回復の状況が伺えるが、今後の見通しは▲10と先行きの受注が低下する懸念が見受けられる。

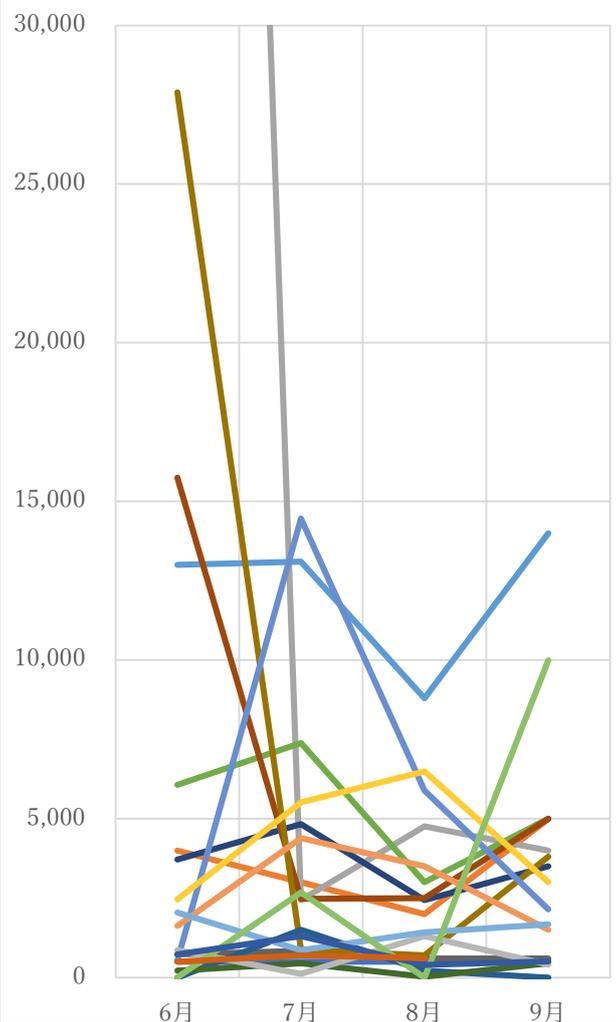
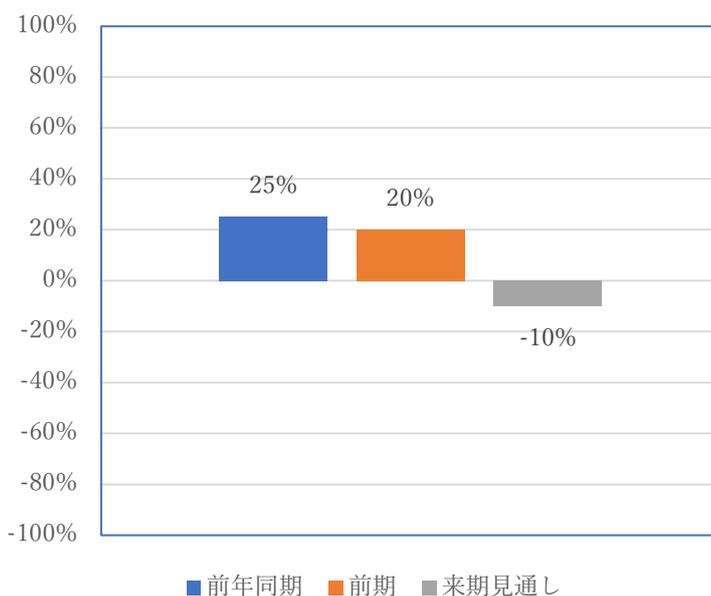
材料仕入れ単価DIが引き続き厳しく、値上がり+80前年同期でほとんどの企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+55と材料価格の上昇を懸念する声が大半である。採算DIも前年同期▲15、来期も▲10と不安の声が多い。資金繰りの見通しも▲15と厳しく、設備投資も低調である。

個別企業の声として、売上は上昇しているが材料費の値上げが続くので取引先にも値上げ交渉が必要になる。材料の価格が上昇しており品目によっては倍の値段になり、納品の納期も長くなっており、引き合いがあっても工事が出来ない。引合いは活発だが人材確保が難しく、契約を慎重にする必要が出ているといった声があり、引合いがある一方原価や人材面で不安があるという懸念が見受けられる。

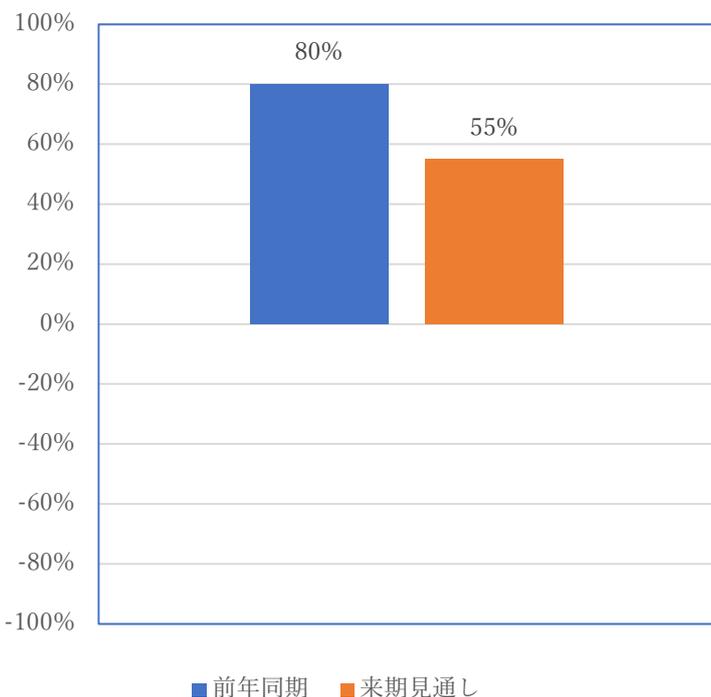
売上推移（千円）

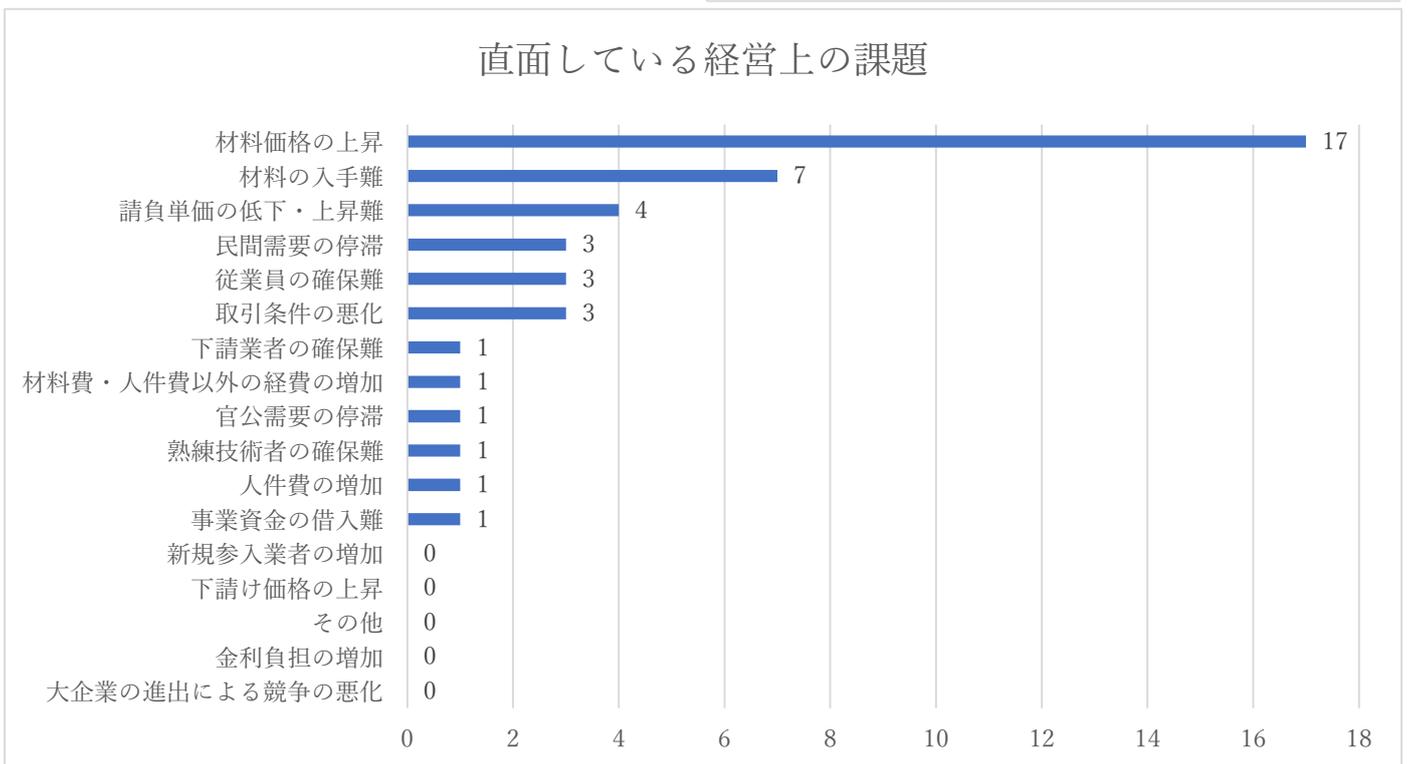
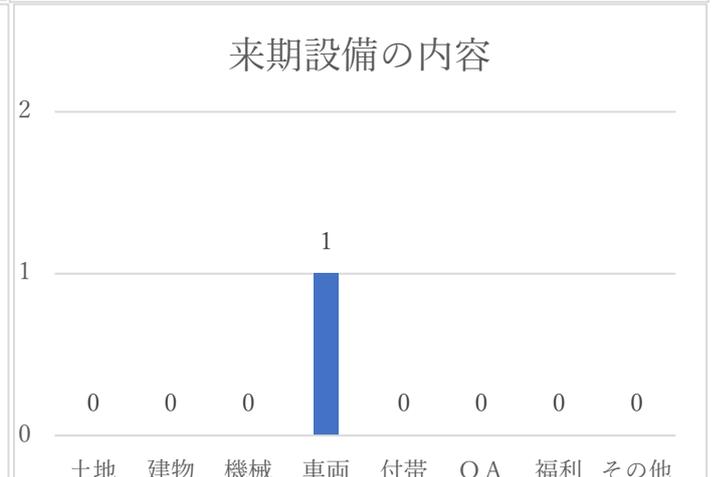
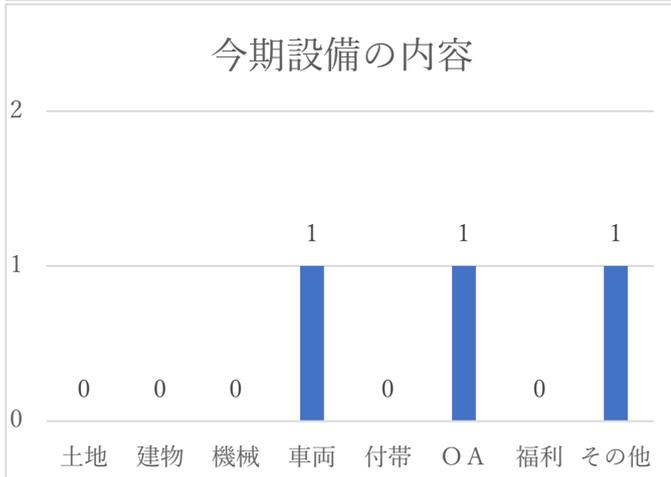
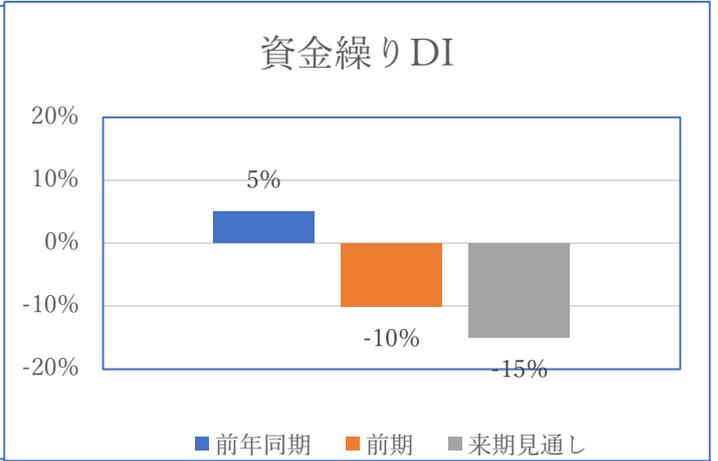
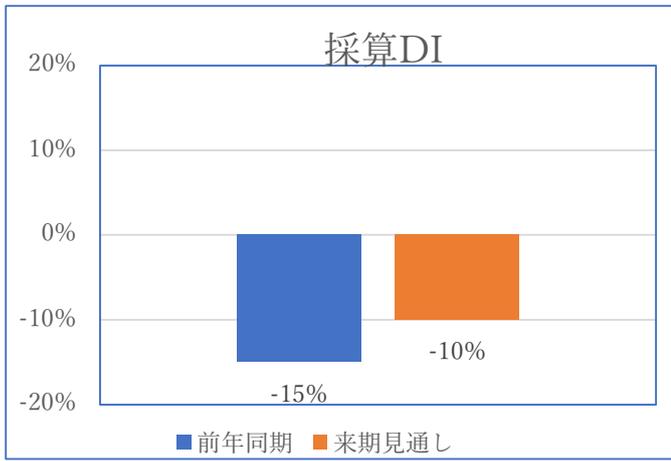


完成工事DI



材料仕入れ単価DI





卸小売業（2022年7月～9月）DI値抜粋

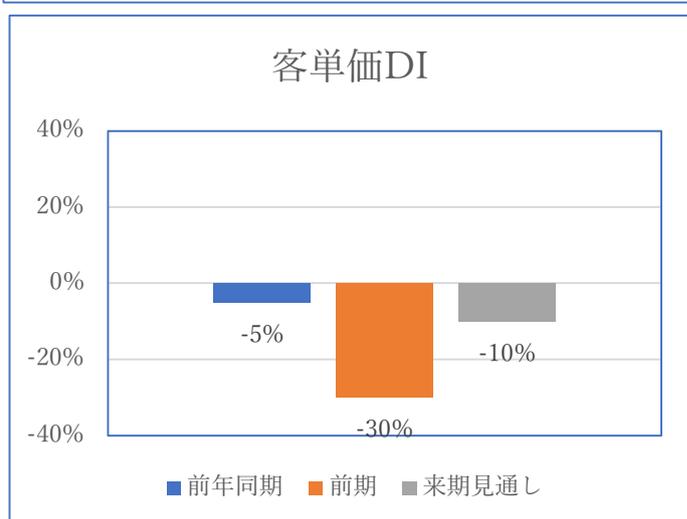
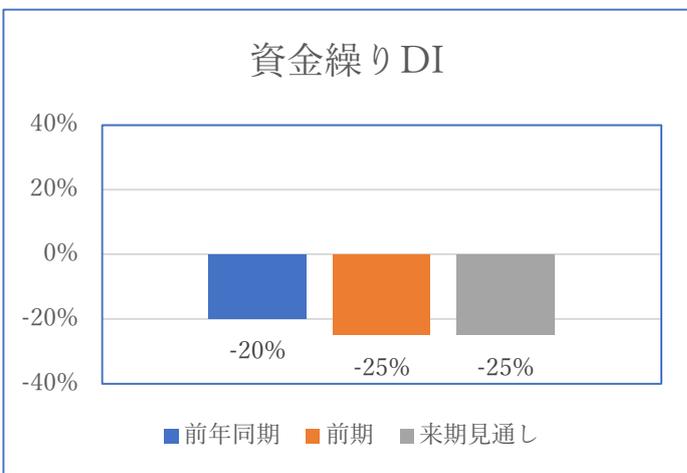
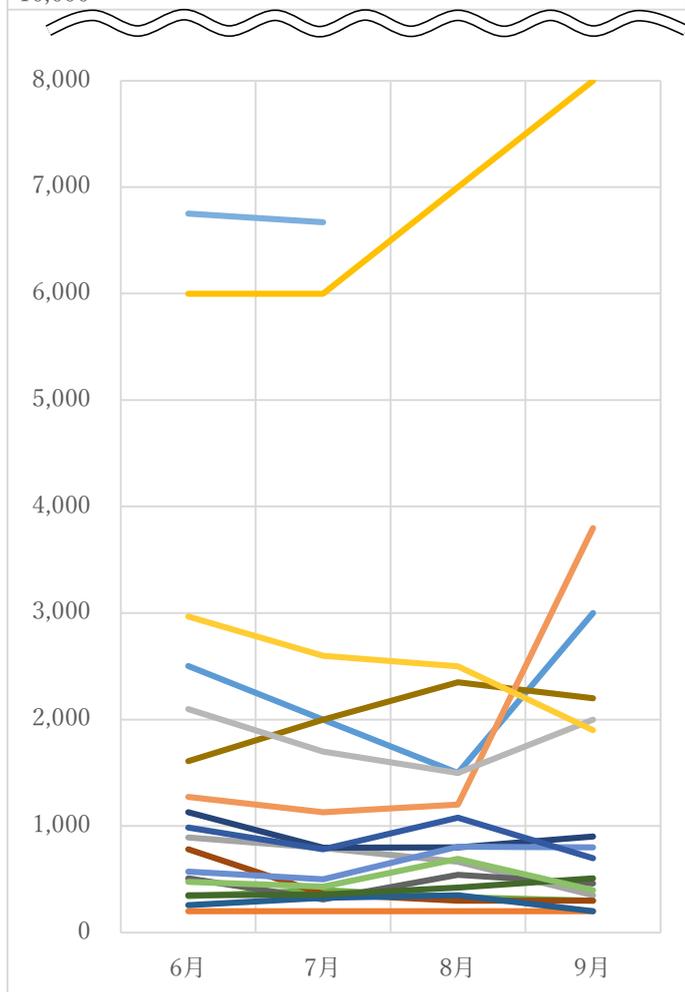
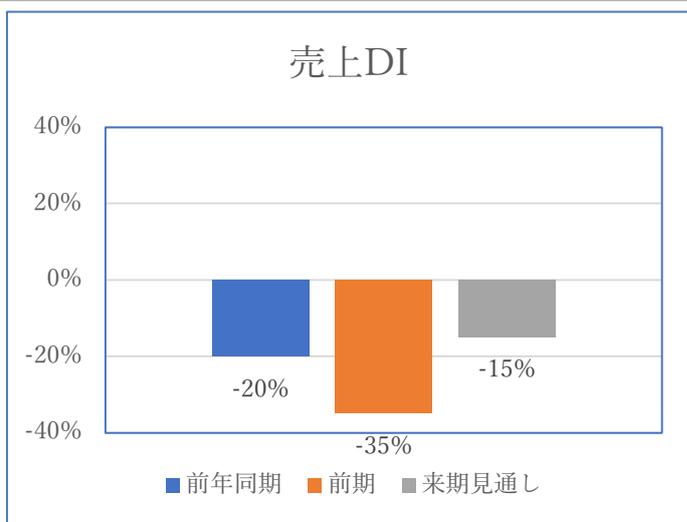
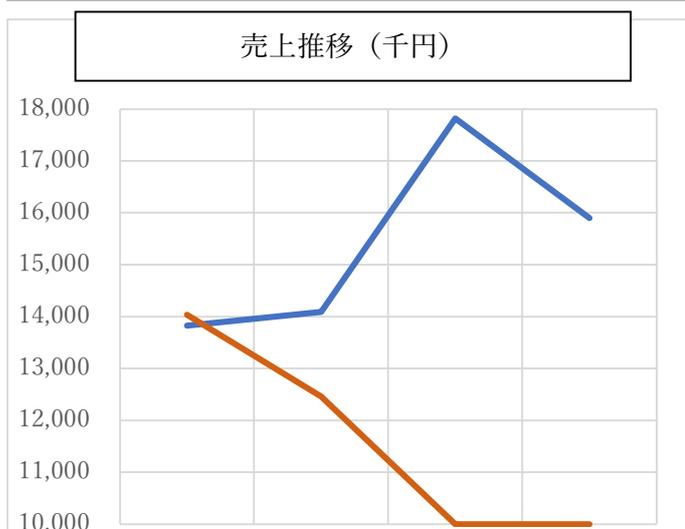
コメント

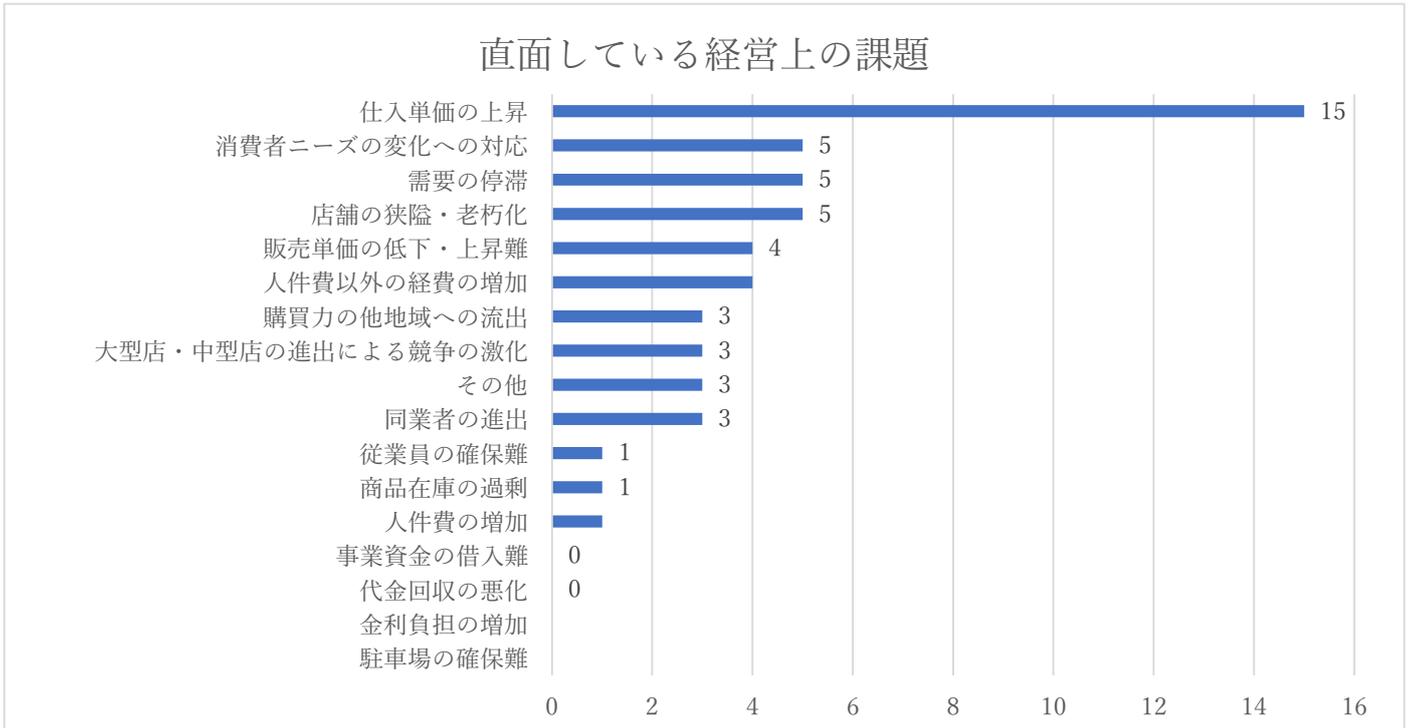
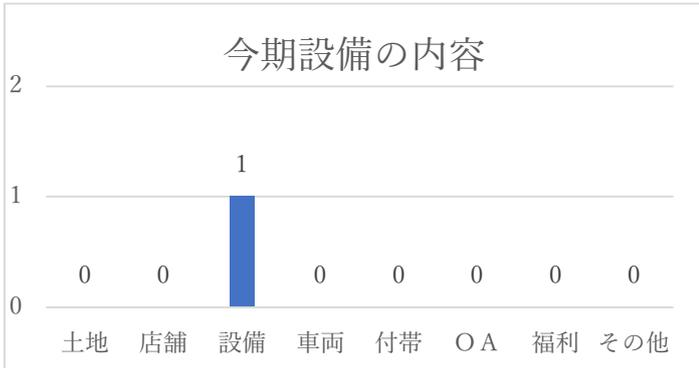
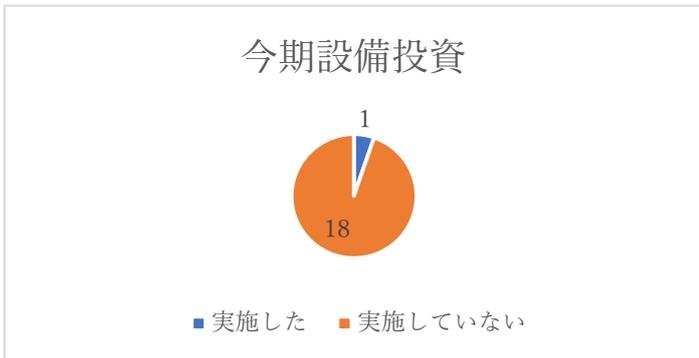
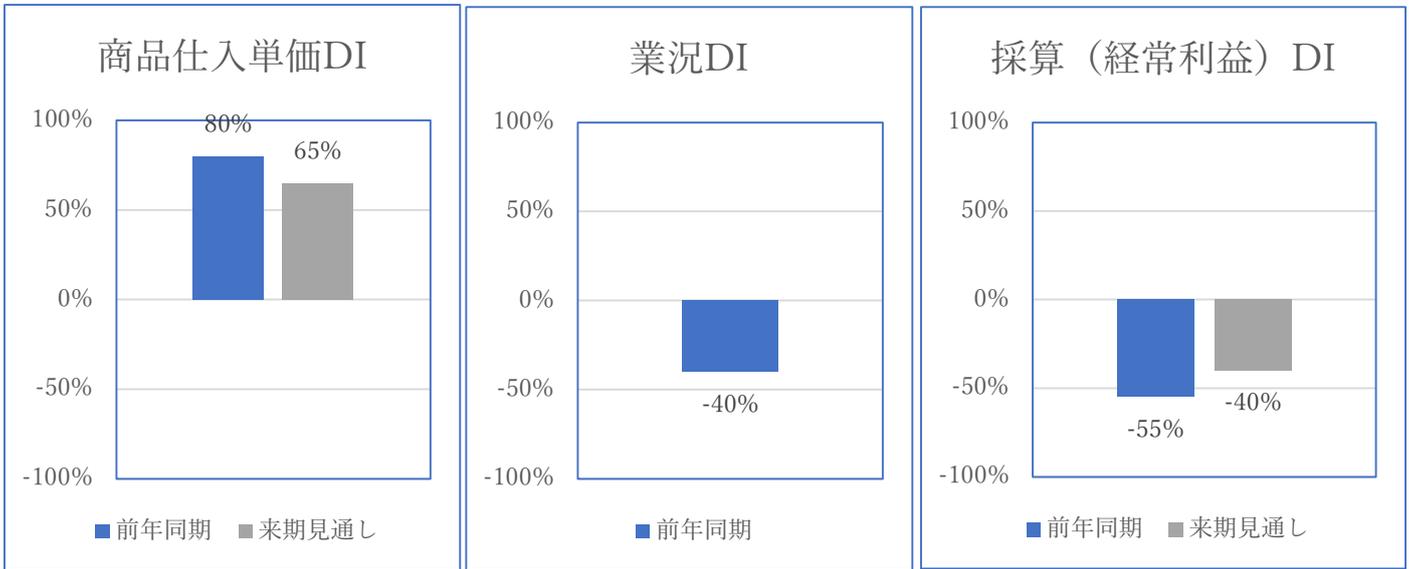
卸小売業の業況に関するDIは、コロナ第7波の影響に加えて原材料価格の値上がりによる採算悪化で極めて厳しい状況が続いている。

売上DIは前年同期▲20、前期からは低下傾向が顕著で▲35と厳しい推移が続いている。今後の見通しも▲15と回復を見通す事業者は少ない。

資金繰りDIについても前年同期▲20、前期▲25と厳しい状況が続き、来期も▲25と資金繰り面に不安を抱える声が多い。客単価の減少傾向も顕著で前年同期▲5、前期▲30と足元が厳しく、来期見通しも▲10と低調な見通しである。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+80、来期見通しも+65と収益を圧迫しており、業況や採算のDIが低いことに繋がっている。設備投資には動きがない。

個別の声として、第7波の影響かと思われる団体観光客の動きがなく、まだ先が読めない状況が続いている。個人客の動きはコロナ禍前に近づきつつあり売上の減少を食い止めている状況。夏場の暑さと降雨の影響とコロナの爆発的感染により休日の人出が伸び悩んでいる。政府の観光振興策に期待しているとの声がある。また、近隣にドラッグストアが2店舗もオープンして競合環境が悪化しているという声もあり、湖北の卸小売業を取り巻く経営環境の悪化が顕著である。





飲食宿泊業（2022年7月～9月）DI値抜粋

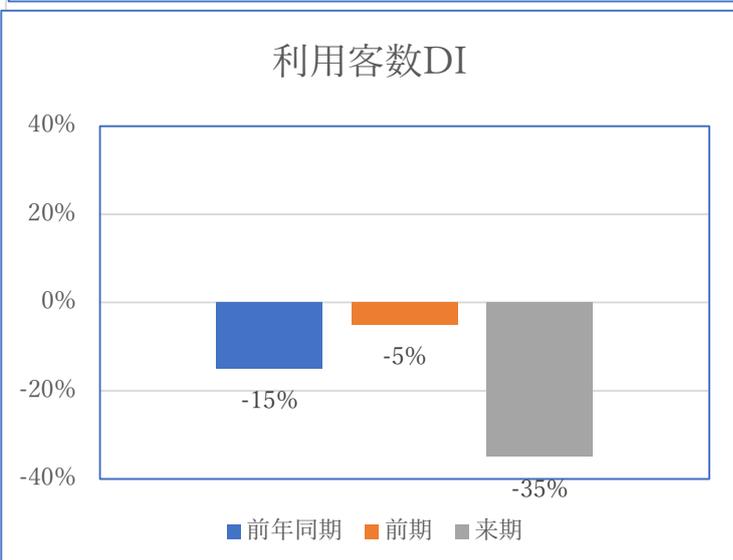
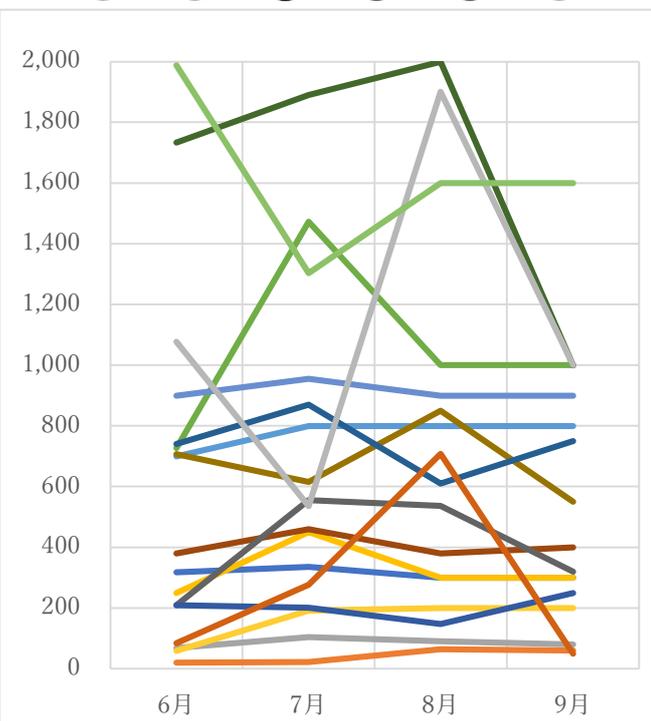
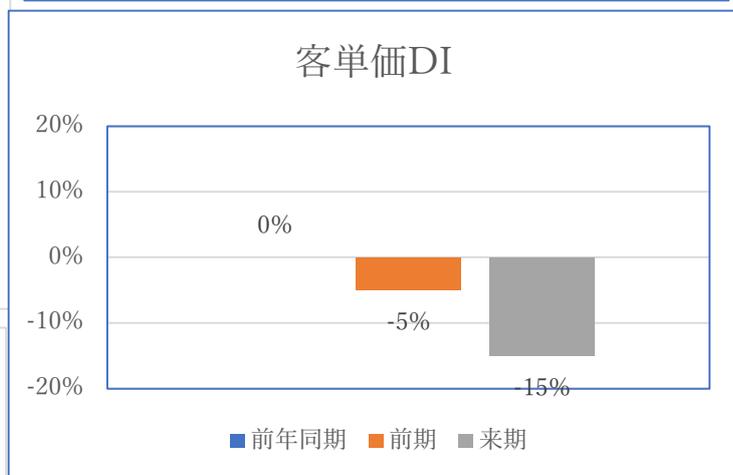
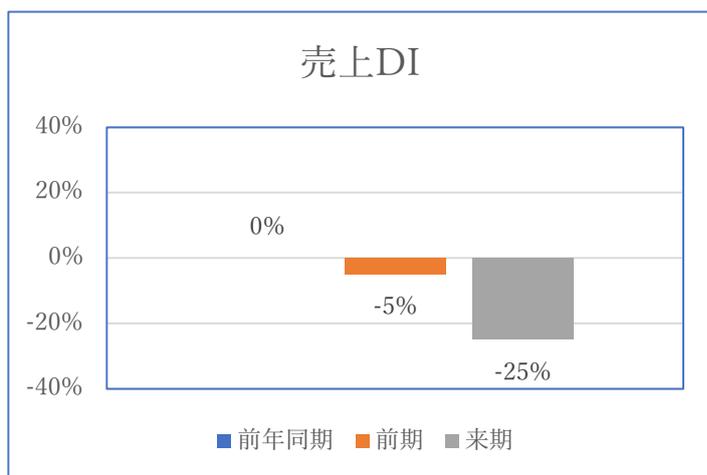
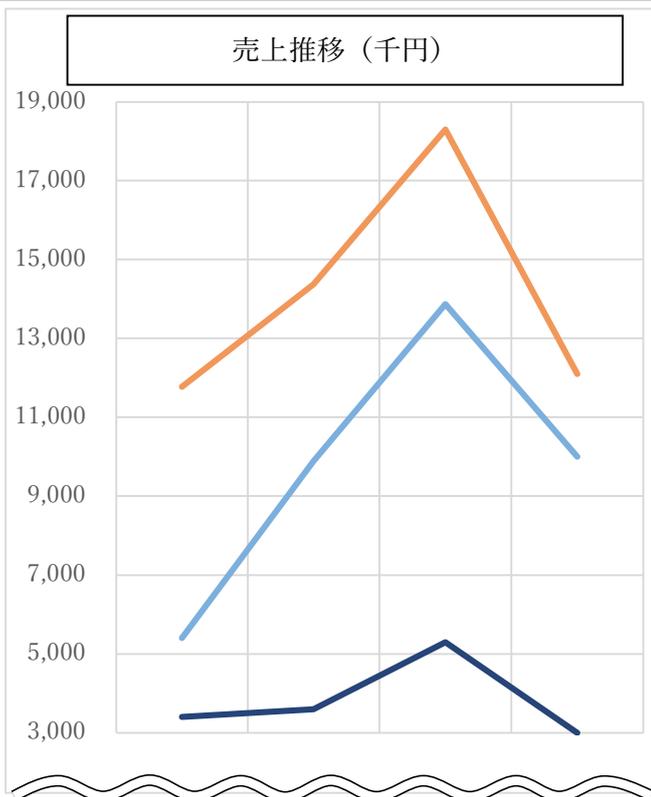
コメント

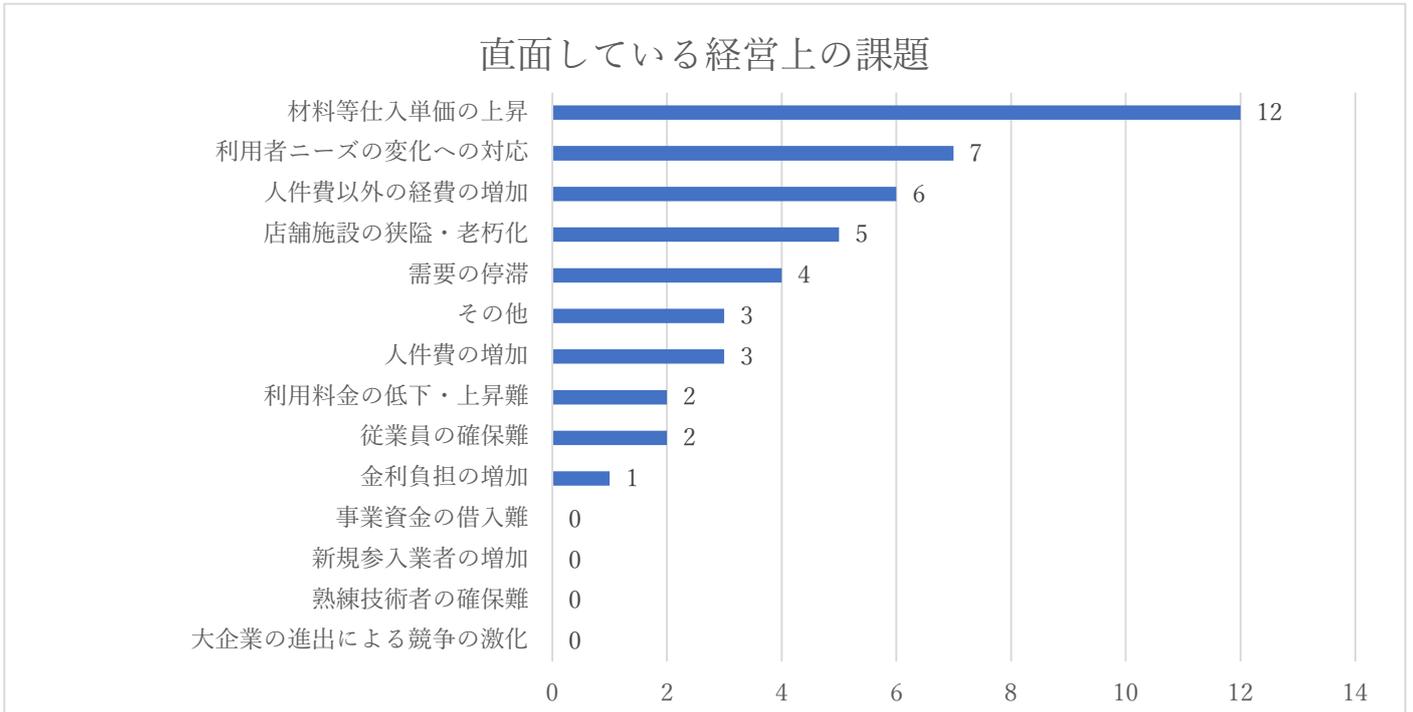
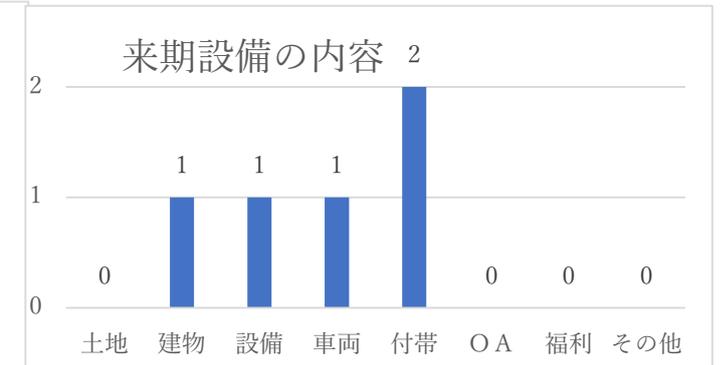
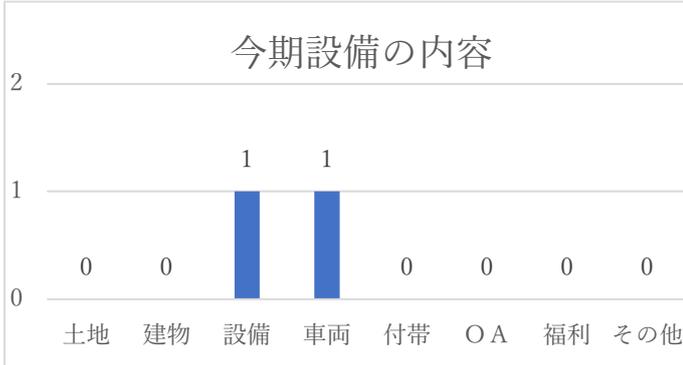
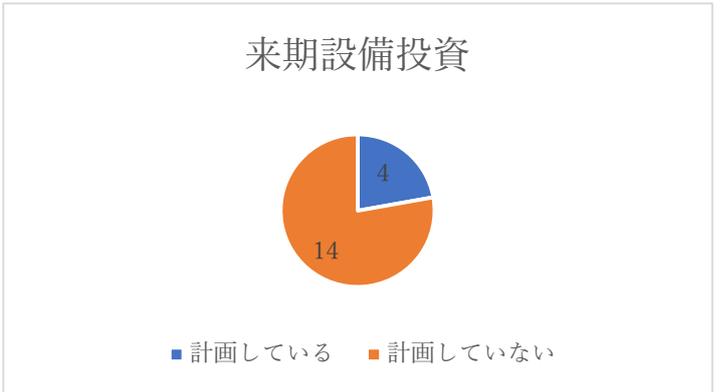
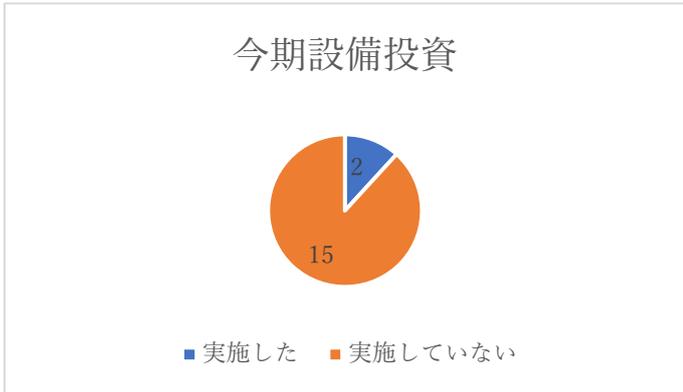
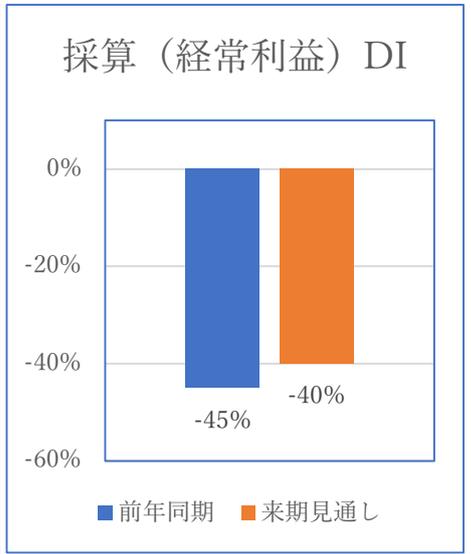
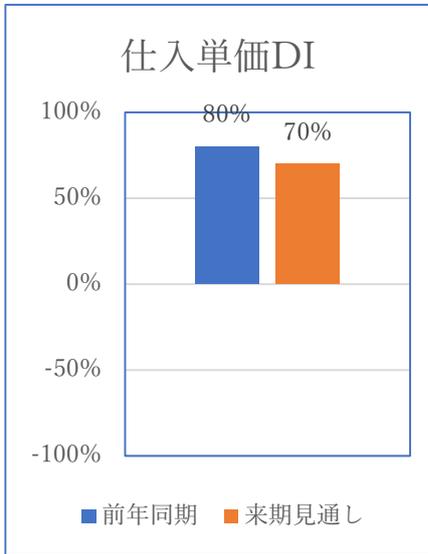
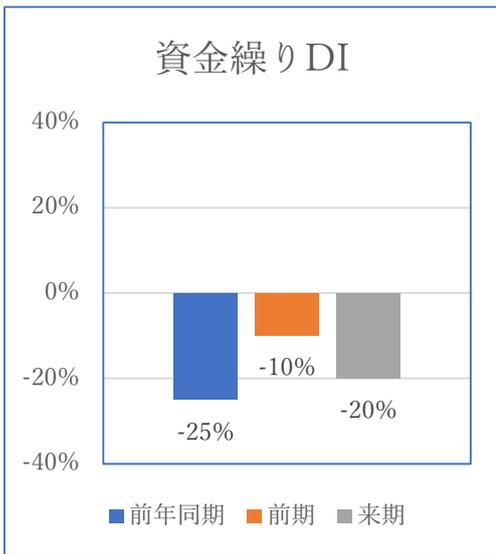
飲食宿泊業の業況に関するDIは、コロナウイルス第七波による人出の低迷と原価の上昇により厳しい状況が続いており、秋口に向けた見通しも不透明な状況が続いている。

売上DIは前年同期±0と昨年からの回復は乏しく、前期▲5と夏場の売上が低迷し。来期も▲25と先行き不安の声が多い。客単価DIも前年同期±0、前期▲5と夏場に低迷しており、今後の見通しも▲15となっている。客数DI前年同期▲15、前期▲5、今後の見通しは▲35と先行きの見通しが厳しい状況である。

資金繰りDIは前年同期▲25 前期▲10 来期▲20と前回調査時と変化なく厳しい。仕入単価の上昇が前年同期+80と原価上昇の状況が顕著で来期見通しも+70、採算も前年同期▲45とコスト増で悪化している。設備投資も引き続き低調である。コスト増加を課題に挙げる企業が多い。

個別の声として、コロナの再拡大により湖北に帰省してくる人が少なく料理屋の利用が少なかった。売上は好転してきたが原材料や燃料費の高騰が採算に影響がある。食用油の値段が3倍になり不要な経費はおさええているもののコスト増加が厳しい。4月以降は宿泊客が増加しているが原材料費の値上がりがあるという声がある。





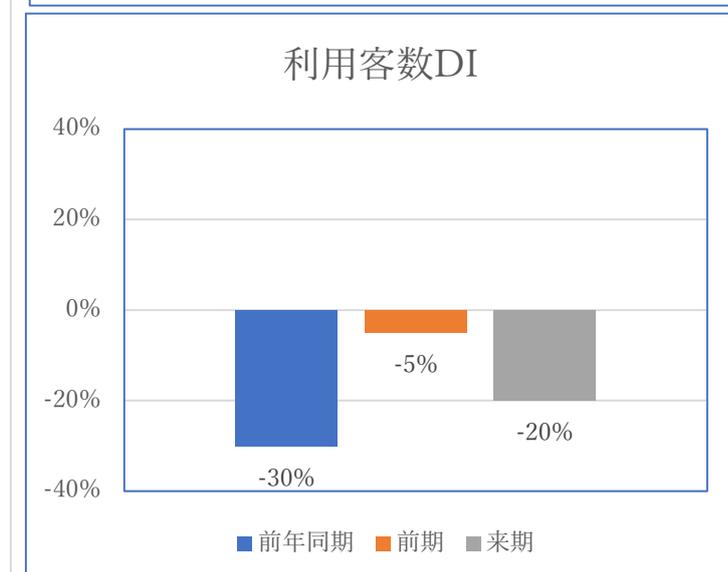
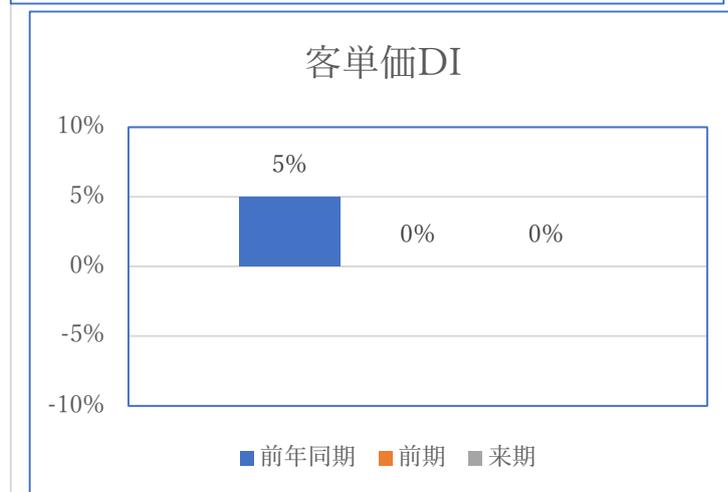
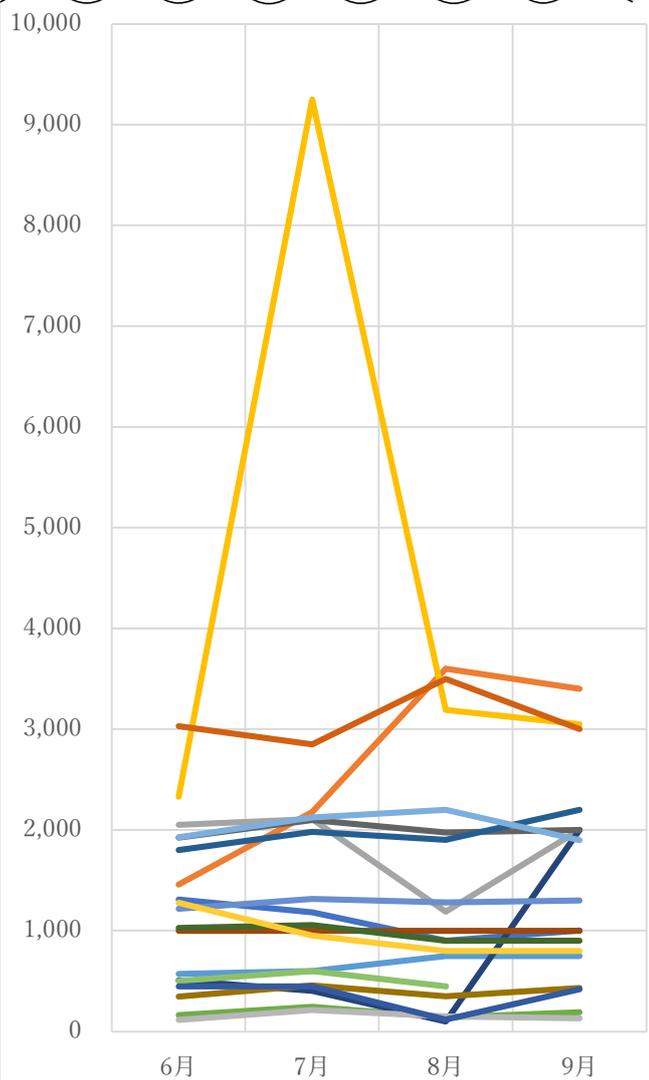
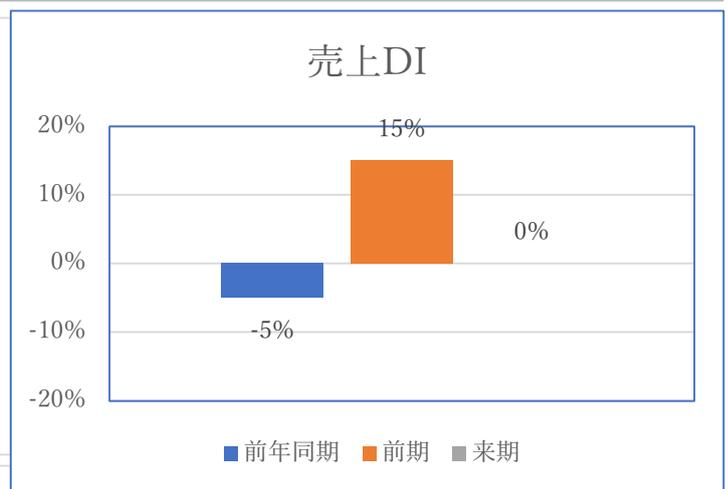
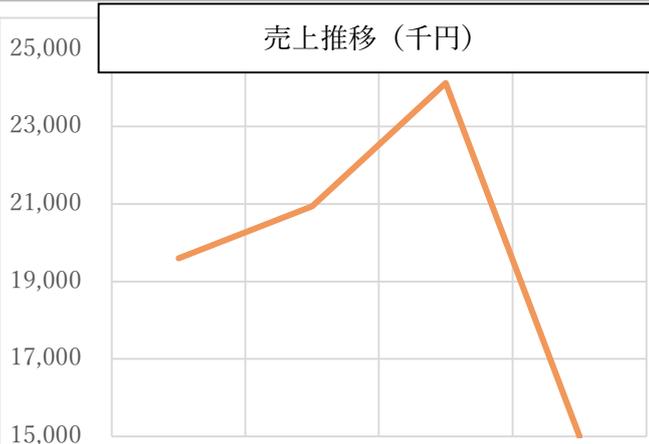
サービス業（2022年7月～9月）DI値抜粋

コメント

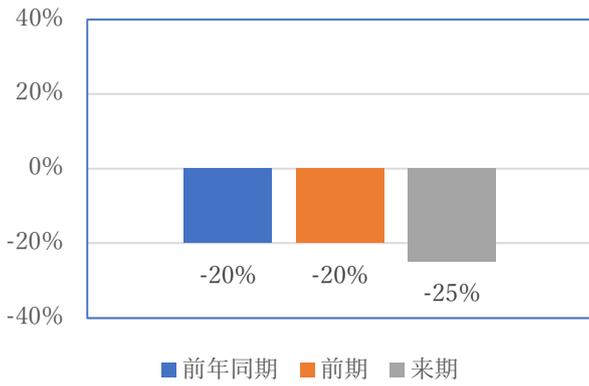
サービス業の業況はコロナ第七波とコスト上昇により厳しい採算状況が続いている。

売上DIは前年同期▲5、前期+15と夏場での売上改善の傾向がある、来期見込みは±0と前年と著変ない。客単価DIも低迷が続き前年同期+5、前期と今後の見通しも±0と回復の声は少ない。客数DI前年同期▲30、前期▲5、今後の見通しは▲20と客足の戻りを期待する声は少ない。資金繰りについて前年同期、前期ともに▲20、来期▲25と先の見通しでも厳しい声が多い。仕入単価DI前年同期+60来期見通し+40と上昇傾向が顕著である、採算DIは前年同期▲15、来期見通し▲5と売上回復が乏しい中で原価コスト上昇により収益悪化の声が多い。

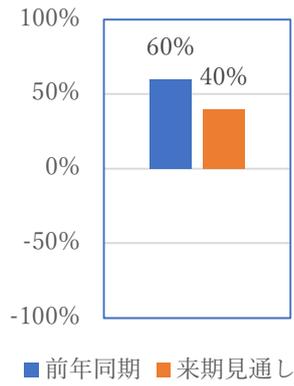
個別の声としては、美容室においては顧客との距離が近い高齢者が外出を控えているという理由により売上が低下している。政府からの行動規制等の緩和策によるところが大きいと思われるが、県や市の経済対策をさらに上乘せが必要から思う。個人事業主にとっては、ペイペイの企画とかを再度行って頂くと有り難いという具体的な声がある。自動車関係の業種では業界全体の構造的な低迷があるとの声もあった。



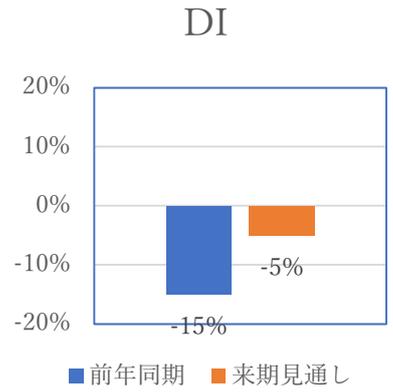
### 資金繰りDI



### 仕入単価DI



### 採算（経常利益）DI



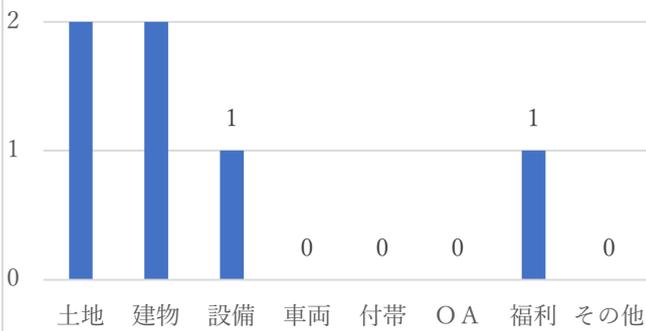
### 今期設備投資



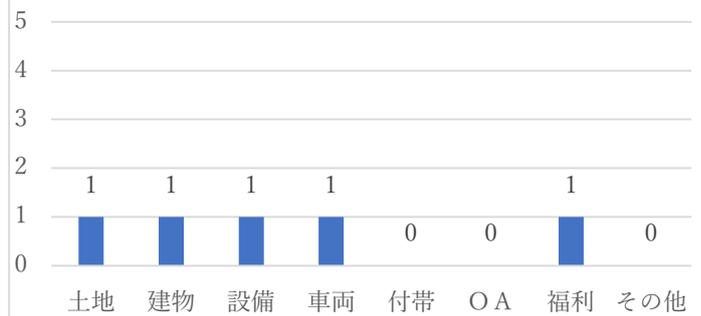
### 来期設備投資



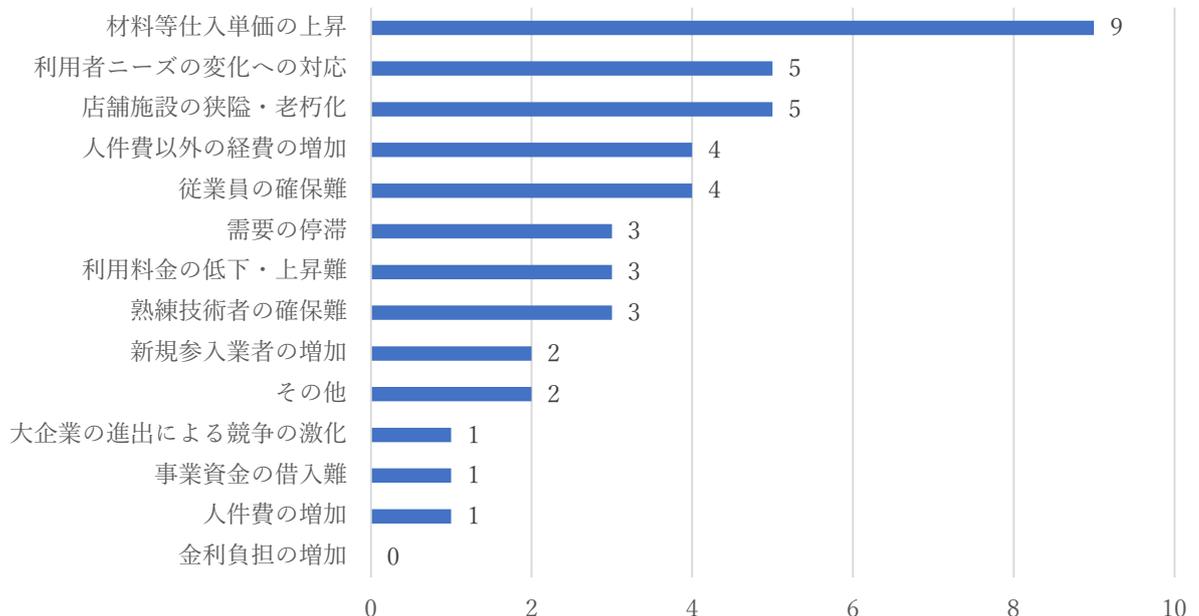
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題



## 小規模企業景気動向調査 [2022年8月期調査]

～業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦しむ小規模企業景況～

### <産業全体> 業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦しむ小規模企業景況

8月期の産業全体の業況は、コロナ第7波の急拡大により売上額DIが2期連続で小幅に悪化、採算・資金繰り・業況DIが小幅な改善となった。一方で、業種によって売上額DIの改善と悪化がみられ、格差が生じている。原材料の仕入れごとに価格が変動し、受注の都度、売上原価の再計算を行う事務作業の時間が増加、とのコメントも目立ち、少しずつ間接部門にも原材料価格高騰の影響が出始めている。一段と進行する円安等による原油・原材料の高騰で、産業全体の採算は低水準で推移し、厳しい経営環境・経営状況が続いている。

|      | DI | 7月   | 8月    | 前月比  |
|------|----|------|-------|------|
| 売上額  | ▲  | 100  | ▲110  | ▲1.0 |
| 採算   | ▲  | 514  | ▲479  | 35   |
| 資金繰り | ▲  | 400  | ▲371  | 29   |
| 業況   | ▲  | 38.5 | ▲34.6 | 3.9  |

### <製造業> 一部で価格転嫁が進み好調であるも、慢性的な採算悪化に苦しむ製造業

製造業は、売上額・資金繰りDIが小幅に悪化、採算DIがわずかに悪化、業況DIがわずかに改善となった。食料品関連は、原材料高騰により採算DIが低水準で推移しているが、行動制限のない盆休みで稼働率が上がった、とのコメントがあった。繊維関連は、円安による輸入原材料高騰の影響が大きく、採算DIが直近1年間で、最大の悪化幅を示した。機械・金属関連は、3期連続で採算DIが改善。価格転嫁が進んでいる、とのコメントがあった。

|      | DI | 7月   | 8月    | 前月比  |
|------|----|------|-------|------|
| 売上額  | ▲  | 56   | ▲82   | ▲26  |
| 採算   | ▲  | 548  | ▲554  | ▲0.6 |
| 資金繰り | ▲  | 406  | ▲432  | ▲26  |
| 業況   | ▲  | 40.8 | ▲40.7 | 0.1  |

### <建設業> 災害関連等の需要増による業況改善に転じるが、先行き不透明感の残る建設業

建設業は、売上額・採算DIが小幅に改善、資金繰り・業況DIが大幅な改善に転じた。先月に引き続き、堅調な官公需や民間工事の受注に加え、8月に発生した大雨による災害復旧需要の増加が顕著に見られた。一方で、価格転嫁対策が追い付かないことによる採算悪化、人手不足による納期遅れが発生するなど、引き続き深刻な状況。材料が高騰し続け正確な見積もりができない、売上は増えるが利益が増えないとのコメントが目立った。

|      | DI | 7月   | 8月    | 前月比 |
|------|----|------|-------|-----|
| 売上額  | ▲  | 102  | ▲82   | 20  |
| 採算   | ▲  | 602  | ▲564  | 38  |
| 資金繰り | ▲  | 486  | ▲431  | 55  |
| 業況   | ▲  | 42.1 | ▲35.6 | 6.5 |

### <小売業> 商品の値上げ、感染症の急拡大等による、売上の悪化に苦しむ小売業

小売業は、売上DIが大幅に悪化、採算DIがわずかに改善、資金繰りDIが小幅に改善、業況DIが小幅に悪化した。食料品関連は売上額DIが大幅に悪化。値上げによる顧客の買い控えが顕著、とのコメントがあった。衣料品関連は10pt超の大幅悪化。売上の減少する時期に、コロナによる来店客減少の影響が重なった。耐久消費財関連は、エアコン特需が落ち着き、売上DIが大幅に悪化。半導体不足による供給不足も大きく影を落とす結果となった。

|      | DI | 7月   | 8月    | 前月比  |
|------|----|------|-------|------|
| 売上額  | ▲  | 120  | ▲19.7 | ▲7.7 |
| 採算   | ▲  | 503  | ▲499  | 0.4  |
| 資金繰り | ▲  | 400  | ▲389  | 1.1  |
| 業況   | ▲  | 40.6 | ▲42.4 | ▲1.8 |

### <サービス業> 行動制限のない盆休みで活況を取り戻すも、感染急拡大の影響に苦しむサービス業

サービス業は、売上DIが小幅に改善、採算・資金繰り・業況DIが10pt超と大幅に改善した。旅館関連は、先月の大幅悪化から一転、全DIで10pt超の大幅改善。行動制限のない盆休みにより、活況を取り戻した結果となった。クリーニング関連は、原油高騰による採算の悪化と改善を繰り返しており、安定しない。理・美容は、全DIで改善傾向が続き、安定してきている。一方、事業者本人がコロナに感染し休業を余儀なくされる、とのコメントがあった。

|      | DI | 7月   | 8月    | 前月比  |
|------|----|------|-------|------|
| 売上額  | ▲  | 123  | ▲8.1  | 42   |
| 採算   | ▲  | 402  | ▲300  | 102  |
| 資金繰り | ▲  | 308  | ▲230  | 78   |
| 業況   | ▲  | 30.5 | ▲19.4 | 11.1 |

#### 調査概要

・調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

・調査時点: 2022年8月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。